

2022年度 編入学試験問題

小 論 文

奈 良 大 学

社会学部 心理学科

【問題】 次のデータは、厚生労働省が令和3年3月に公表した「新型コロナウイルス感染症に係わるメンタルヘルスに関する調査 インターネット調査 報告書」の一部です。

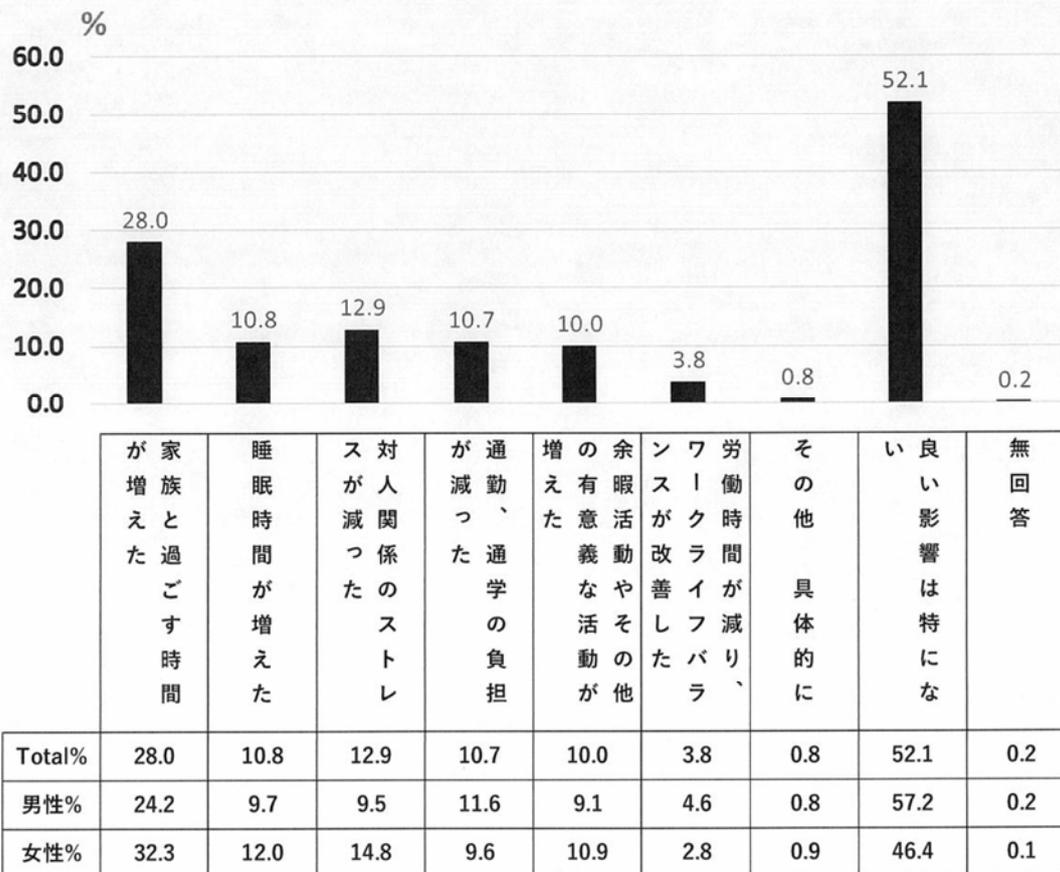
調査期間：令和2年9月11日（金）～9月14日（月）

調査方法：インターネットによる調査

調査対象：一般の方々15歳以上

回収サンプル：10,981件（有効回答 男性 5,286名、女性 5,127名）

下の図は、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って生活スタイルが変化することで、あなたの生活に何か良いと思える影響はありましたか（複数回答）」の結果に基づいて作成した図です。



このことについて、以下の設問に答えなさい。

設問1：図から読みとれる「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って生活スタイルが変化することで、何か良いと思える影響（複数回答）」について、端的にまとめて回答しなさい。

設問2：図から読みとった「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って生活スタイルが変化することで、何か良いと思える影響（複数回答）」について、あなたの考えを端的にまとめて回答しなさい。

【出題意図】

心理学では、データ（数値）を客観的に読みとる力が求められる。また読みとった内容に基づいて、論理的に自分の考えをまとめる力が求められる。出題の意図は、それらを行う素養があるか評価するための設問である。具体的には、下記の通りである。

- ・データの数値を正確に読みとり、主要な特徴を簡潔にまとめることができるか。
- ・全体の傾向や男女差など、データからポイントを抽出することができるか。
- ・読みとった事実を踏まえて、自分の考えを論理的に記述する力があるかどうか。

【評価基準】

上記、出題意図を満たしているか。

【設問 1 の解答例】

調査結果では、「良い影響は特にない」が 52.1%と最も高く、生活の変化を肯定的に捉えていない人が半数強を占めている。一方で、良い影響として最も多かったのは「家族と過ごす時間が増えた」(28.0%)であり、特に女性(32.3%)が男性(24.2%)より高い。次に多いのは「対人関係のストレスが減った」(12.9%)であり、先ほどと同様、女性(14.8%)の方が男性(9.5%)よりも高い。また「睡眠時間が増えた」(10.8%)や「通勤、通学の負担が減った」(10.7%)、「余暇活動やその他の有意義な活動が増えた」(10.0%)など、日常生活に関わる項目が 1 割前後ある。男性は「通、通学の負担が減った」が女性と比べて高く、女性は男性と比べて「家族と過ごす時間が増えた」や「人間関係のストレスが減った」といった項目が高い。

【設問 2 の解答例】

調査結果から、多くの人が新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って変化した生活スタイルを、

必ずしも肯定的に受け止めていないことがわかった。一方で、家族との時間の増加や通勤・通学の負担軽減など、生活の質に関わる面では一定の良い側面があると捉えていることがわかった。女性で家庭や人間関係に関する項目が高いことは、男性と比較して生活環境や役割の違いが影響していると考えられる。また、男性で女性より通勤負担の減少が高く、移動時間の削減が生活のゆとりにつながったと推測できる。一見すると、生活スタイル饒辺かを肯定的に受け止めていないように思えるが、丁寧に調査結果をみていけば、肯定的な側面もあることから、この調査結果が今後の働き方や生活スタイルを肯定的に捉えるきっかけとなりうるのではないかと考える。